

「家庭学習スタンダード」の活用実践事例

自ら考えて取り組む家庭学習を通して、 児童の自己マネジメント力を育む

会津若松市立城北小学校

家庭学習の習慣はおおむね定着しているが、与えられた課題だけをこなす受け身の姿が目立っていた。自己マネジメント力の育成を目指して、児童が自分でめあてや内容を考えて取り組むことができる家庭学習へ、質的改善に取り組んだ。

取組のねらい

家庭学習を通して自己マネジメント力を育てたい

城北小学校の家庭学習で目指すのは、学校の授業等の教育活動で学習意欲が一層高まった児童が、もっと学習したいと家庭でも自主的に取り組む児童の姿。そのために、家庭学習を自分で学習や生活を改善する力、つまり自己マネジメント力を育成することを目指し、家庭学習の改善に向けて取り組んだ。

取組の内容

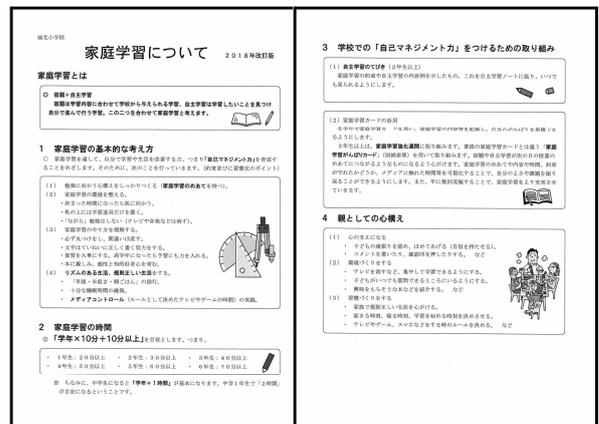
「城北小学校の家庭学習」の確立

① 「城北小学校の家庭学習 基本方針」の作成

もともと本校では、「家庭学習について」という家庭学習の基本的な取組を定めたものがあり、保護者にも配付し、それをもとに家庭学習を行ってきた。今年度に入り、これを「家庭学習スタンダード」の趣旨を十分に取り入れる形で見直し、本校としての考えを「城北小学校の家庭学習 基本方針」としてまとめた。冒頭には、「学校の授業等の教育活動で、学習意欲が一層高まった児童が、もっと学習したいと家庭でも自主的に取り組むことを目指す。」と、城北小学校の目指す家庭学習の姿を掲げた。そして、家庭学習についての考え方を見直した。

② 保護者に向けて

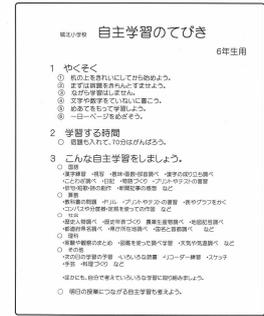
本校の家庭学習の改善に向けての取組を理解し、協同で取り組んでもらうために、まず、今年度はじめに、「家庭学習スタンダードを見てみよう」というお便りを作成・配付し、保護者に「家庭学習スタンダード」の趣旨を再確認してもらうとともに、啓発を図った。次に、「城北小学校の家庭学習 基本方針」をもとに、児童・保護者向けの家庭学習の取り組み方を示した「家庭学習について」も改訂し、改めて保護者に配付した。さらに、第1学期末の授業参観・懇談会の全体会で保護者への説明を行った。



自主学習について(保護者向け)

③ 児童に向けて

2 学年以上について、自主学習の仕方や内容例を示した「自主学習のてびき」を作成し、自主学習ノートに貼るなどして活用することにした。家庭学習の約束、学習時間（6 学年の場合は 70 分以上）、内容例が書かれている。また、本校で目指す家庭学習として、授業と家庭学習の関連があるが、そのため「明日の授業につながる自主学習も考えよう。」の一文を添え、児童が主体的に自主学習に取り組むことができるようにした。



自主学習のてびき

家庭学習強化週間の実施

自己マネジメント力の育成を目指し、第3 学年以上の学年で「家庭学習がんばりカード」を作成・活用した「家庭学習強化週間」を実施することにした。「家庭学習がんばりカード」は、自分でめあてを立て、自主学習の内容を決め、振り返りをする内容になっている。また、家庭学習の量と質に大いに影響する、メディアとの関わりにも目を向けることができるよう、「メディアにふれた時間」の欄も設けた。さらに、中学校区で情報を共有し、共通性のある家庭学習の基本方針や「家庭学習のてびき」を作成した。

「家庭学習強化週間」は、推進地域での連携を図りながら進め、第一中学校の定期テストに合わせて位置付けた。協力校である行仁小学校では自校化したカードを用いて、第一中学校でも「自己目標設定カード」や「メディアコントロールシート」を用いて「家庭学習強化週間」に取り組んできた。

メディアコントロール強化週間の実施

家庭学習に取り組ませる中で、課題として明らかになってきたのが「メディアに関わる時間」の多さだった。家庭学習の充実のためには、メディアコントロール力をつけることが必要と考え、「メディアコントロール強化週間」も随時実施することにした。児童一人一人が、メディアとのつきあい方を考え、自分の目標を立てて取り組むことができる内容になっている。1・2 年生は、「家庭学習強化週間」にメディアコントロールチャレンジカードに取り組むことにした。

「家庭学習がんばりカード」「メディアコントロールチャレンジカード」とも、冬休みを含め数回実施してきた。

メディアコントロール
チャレンジカード

実践して見えてきたこと

児童や保護者の意識を高める

学校として、家庭学習の基本方針をまとめたことで、教師、児童、保護者の共通理解を図ることができて有意義だった。また、「家庭学習がんばりカード」を活用することによって、以下の4つの成果があらわれた。

- ① 児童が自分でめあてを立て、自主学習の内容を決め、振り返りをするようになった。

- ② 児童や保護者の意識付けにつながり、メディアコントロールに対する意識も高めることができた。
- ③ 「明日につながる自主学習」という視点を示したことで、児童自身が授業を振り返り、自主学習の内容を考えるいいきっかけになった。また、保護者が一緒に考える姿も見られた。
- ④ 中学校区で連携を図り、中学校の定期テストに合わせて「家庭学習強化週間」を実施したことは、児童の意識付けに効果的だった。

児童の家庭学習やメディアとの関わりの実態を知る

「家庭学習強化週間」1回目と2回目の主な結果の比較は、下表のとおりだった。

○ 1回目（9月24日～30日実施）

項目	3年	4年	5年	6年
家庭学習の時間よりメディアにふれた時間が長かった児童	約78%	約33%	約40%	約55%
日曜日にメディアにふれた時間の平均	約99分	約54分	約59分	約91分
日曜日の家庭学習の時間の平均	約47分	約59分	約61分	約63分
平日のメディアにふれた時間の平均が2時間を超える児童	約22%	約7%	約4%	約23%
「明日の授業につながる自主学習」に一度でも取り組めた児童	約58%			

○ 2回目（11月9日～15日実施）

項目	3年	4年	5年	6年
家庭学習の時間よりメディアにふれた時間が長かった児童	約74%	約36%	約37%	約60%
日曜日にメディアにふれた時間の平均	約92分	約67分	約78分	約120分
日曜日の家庭学習の時間の平均	約42分	約58分	約55分	約73分
平日のメディアにふれた時間の平均が2時間を超える児童	約8%	約14%	約4%	約27%
「明日の授業につながる自主学習」に一度でも取り組めた児童	約62%			

実施時期や期間が異なり、単純な比較はできないが、3学年では「平日のメディアにふれた時間の平均が2時間を超える児童」が大きく減った。全学年を通して、「明日の授業につながる自主学習」に一度でも取り組めた児童が約58%から約62%に増えた、といったプラス変化も見られた。また、自主学習に取り組む時間や内容、メディアに関わる時間には個人差が大きいことなど、児童の実態は把握することができた。

第2回目の児童の「反省・感想」の欄には、「この前よりもうまくできたと思うのでよかったです。」「前回よりメディアにふれる時間を減らせた。文字や数字がていねいに書けなかったときがあったから気をつけたい。」「メディアにふれていない時間は、お手伝いや読書に使う家族とも話す時間が増えたのでよかったです。」といった、より意識が高まった姿が感じられるものが見られた。

さらに自己マネジメント力を高めるために

自己マネジメント力の育成のためには、「家庭学習強化週間」の期間だけでなく、日常の積み重ねが大切である。継続させるための対策や工夫が必要である。自主学習の内容を個に応じて示したり、よい取り組みを紹介したりするなどの新たな工夫を考えていきたい。

授業と家庭学習の連動を意識した取り組みを行ってきたが、校内で学年や教科に対応した具体的な内容を示すことが難しかった。家庭学習への意欲につながるような授業の工夫についても考えていきたい。

「家庭学習強化週間」や「メディアコントロール強化週間」の期間中の保護者の協力は予想を上回るものだった。次年度も保護者の協力を得ながら、さらにより子どもの姿を目指していきたい。